

# 父は息子の夢を見る

今村 健司（東京都 会社員）

## ●国際協力活動が将来にどう影響するのか

私には9歳の息子がいる。エチオピア政府が新5カ年開発計画を掲げ中所得国家になるうとしている2023年には、彼は18歳になる。その彼が社会に出る年頃には、エチオピアは日本にとって欠かせないパートナー国になっているかも知れない。国際協力レポーター当選の通知を受け取ってから、私は視察先国の日本にとっての重要性を考えてみた。

エチオピアは過去3000年間、植民地化されたことがない。1991年まで社会主義思想を持つ国だったが、現在は各州の独自性を重んじた連邦共和制をとる。国土は外海に面しておらず、2012年度の対日本の貿易額からみると輸出入の規模はそれぞれ約49億円、約104億円と、日本の貿易総額からみると、とても少ない規模だ。しかし経済成長率は近年2桁成長を続けてきた。さらに首都アジスアベバにはアフリカ連合の本部がある。アフリカという大きな経済圏が立ち上がろうとしているいま、知らないでは済まない。なぜなら資源を持たない日本は交易によって経済発展と国際社会での発言力を得てきたからだ。JICAがこのタイミングで我々をエチオピアに送る意義を感じ取ろうと思った。

そして国際協力について私はあまり多くを知らなかった。ODAについて初めて聞いたのは外国人からだった。そして外国から見た日本の貢献があることに気がついた。JICA市ヶ谷を訪れると、戦後の日本復興には海外からの多大な援助金で支えられていたことを知った。日本が国際協力に参加して、今年10月6日で国際協力60周年を迎える節目となるそうだ。ODA大綱の見直しが進められていると聞く。国際協力について学ぶ絶好のチャンスだった。

## ●日本の国際協力活動は信頼を構築すること

帰国すると人から「どうだった？」と聞かれる。そのたびに少し考えてしまう。殆どの人が行ったことのないアフリカ特有のことをどう語ればいいのか。実は私にとってのエチオピアは、あまり違和感のない国だった。それは人に着目していたからかも知れない。もちろんインフラ面では、特に、水と衛生面でより安全なインフラ整備が必要だと思った。これには人道的支援の必要性を感じる。しかし人に目を向けると、子供達の飽くなき好奇心は純粋で、青年達はカイゼン理念に新たな時代への興奮を覚え、女性達は新しい方法で活躍を始めている。観光通商公社の社長は、日本はエチオピアと同じく自然資源に恵まれないのに世界第二位の経済大国に成長したので日本を尊敬している、とおっしゃった。EKI カイゼン・コンサルタントの青年や OK Jamaica社の靴工場の倉庫マネージャーは、日本のカイゼン理念は素晴らしい、と興奮気味で語った。周囲に赤土と草原が広がるアワシユ橋の建設現場では、ぜひ安全な日本の建設現場で働きたい、とエチオピア人は言う。メルカサ試験場の博士は、日本で受けた教育のおかげだと語っていた。水道局で働くシニア海外ボランティアの方々は、これまでの日本の活動が感謝されているから自分達も仕事をしやすい、と語られた。

世の中にはお金を出しても買えないものがある。日本の国際協力はこうしたエチオピアの人々に対して、お金では買えない「感謝の心」を根ざす活動を行っているのだと、今回の視察を通じて私は確信するに至った。いくらお金があっても使ったら消えて無くなってしまふ。しかし人の心に残る感謝の気持ちが生まれればそれは何年経っても消えないし、いつか互いに協力したいと思う礎いし「ずえ」となるだろう。これは国際協力の素晴らしい考えだと思う。だから私は「どうだった？」と聞かれたら、「日本が大好きになった」と答えている。

## ●エチオピアに学ぶ日本の素晴らしさ

エチオピア視察で感じた課題から、気がついた日本の素晴らしさをお伝えしたい。

始めにモチベーションの話である。カイゼン理念がどうして日本で生まれたのか、視察先で質問を受けた。自然資源が乏しいから、国土が限られているから、といった背景が挙げられるだろうと思った。日本人は創意工夫が大好きだと思う。エチオピア人の良いところは「あるもので満足できる、皆で分け与えられる」ことだそう。貧しいことを恥と思わないこともお聞きした。しかし23年前から比べると国民の数がほぼ倍増し、エチオピアも変わらなければならない時が来ている。変化しよう、と思う気持ちを奮い立たせるのに、日本の創意工夫の考えが役立っていると感じる。一つ気になるのは学歴社会化である。エチオピアの生徒たちは成績をととても気にする。進級できないと収入の良い職につけないからだ。優秀な生徒は、成績順に学部と将来の職が決められる。国家レベルでの人財活用の最適化である。日本のように選択の自由は選択の責



子供達

任も伴う。とはいえ、自分の進路を選択できることは素晴らしい。

次に情報・コミュニケーションの観点からである。アムハラ語が公用語だが、高等教育は全て英語である。アダマにある高校を視察したが、英語ができる生徒は1割程度しかいない、とのこと。急速な人口増で教員不足も課題となっている。さらに地方では州ごとに公用語が異なる。メレス首相時代に地方分権を進めた結果、地方言語の使用が認められたのだそうだ。エチオピアには確認できただけでも80種類以上の言語が存在する。現在首都には国民の約3～4%が住んでいるが、将来首都に人が集まるようになれば地方言語との違いは大きな壁となるだろう。先人の努力によって、日本語で学位まで取れてしまう日本の教育システムのありがたみを感じられた。日本語の語彙の豊富さや多様な表現方法は日本の四季や島国ゆへの地勢的・歴史的背景から生まれ、その言葉が日本独特の考えや文化を生んだのだと思う。そして、これこそが日本を世界のなかでユニークな国とさせている理由かも知れない、と私は思う。

最後に女性登用の観点で取材を行った。カイゼン普及能力開発プロジェクトの取材で、近年は女性の活躍が目立つ、と伺った。夫の承認がなければ既婚女性が家庭を出られない、女性の負担が大きい、といった事情はあるものの、女性ならではのリーダーシップを発揮する現状を知った。これは推察するに、多様な価値観で社会を良くしようとする狙いが感じられる。

それに加えて私は、子供たちの目が忘れられない。遊びや情報が限られているためか、我々の来訪が珍しいのか、子供たちの目がキラキラしている。靴磨きの子らも、市場でガム売りの子らも、田舎で出会った子らも、レストランで出会った子らも、なんでも吸収しようとする意思の輝きがあった。前後数キロに渡り何も無い車道脇で水を入れた缶をロバに運ばせている子は、まだ5、6歳に見える。その逞しい姿に、彼らは生きるために家族のなかで立派に役割を果たしていることを知った。女性・子供・男性と、それぞれに役割があるように思う。日本は豊かで自由な国だ。恵まれている、と思う。だから自分が果たすべきことを考え、自由の意味を正しく理解する必要性を感じている。

### ●対話のための言葉を持つ

視察を終えて、いま日本が行っている国際協力活動は何を意味するのか考えてみた。国際協力は互助会である。エチオピアは急速に増えた人口に対応するため人道的支援を必要としている。と同時に未来の経済発展に目を向けている。他方、日本も援助対象国の例外ではない。3.11の震災時には世界でもっとも援助・義捐金を受けた国になった。エチオピアからも頂いたのである。今を生きるために、そして将来の発展のために、互いに協力し合うことは人の行いとして、とても自然なことだと私は思う。

安全保障面で見ると、日本は武力ではなく平和を重んじる。日本とは、「世界のテロリストがテロを起こせない国（世界中を敵にしてみようから）、世界中に行けるパスポートが持てる国」、だという。今の我々が国際社会において如何にしてこの立ち位置が得られたのかを考えたい。エチオピア滞在中、私は一度も嫌な思いをしなかった。日本人と分かると感謝された。しかし一般市民の方々には知らない人が多くいたのも事実である。世界は開発政策と情報化社会が進み、どんどん国際社会の均一化が進んでいる。しかし、みなの違いがなければ、ただ疲弊するグローバル競争を生むだけだ。そこに幸せはあるだろうか。独自性を持つこと、見た目や考えが違う人を許し尊重することが、これからの生き方だと私には思える。相手を理解したり、自分の考えを伝えたりするのはしんどいかも知れないがやっぱり、人はいろいろあってよい、と思う。

私はしっかりとした言葉を持つ必然性を痛感する。いまの国際協力活動は未来の国際社会における多様な人と人とのコミュニケーションを支えるための、信頼基盤を築き上げている。視察を終えて私たち視察団の一人が言った。「国際協力で活躍する人は命の使い方を知っていると。知ってる？使命と書くのよ」。本当にほんとうに大事なことだ。

私の使命は、3つあると思う。1つは日本を元気にすること、2つ目は国際社会において日本の立ち位置を維持・発展させること、3つ目は息子をキチンと育てること。日本に帰ってからお土産の石を息子に渡すと、彼は言った。「僕もいつかエチオピアに行ってみたいな」。どうやら未来の架け橋は繋がっているようだ。父は「息子の夢」をみた。彼がその夢を現実にさせるために、私は今出来ることを精一杯努力したい。そしてその思いをいつか本に書いて、人の営みは過去からの意思が脈々と流れていることを伝えたい。

相手に興味を持つこと、人とよい関わりを持つことは、きっとその人の人生を豊かにすると私は思います。このレポートを読まれた方が何かしらに共感してくださり、世界を、日本を、そしてご自身が幸せになることを始めるきっかけになれば、とても嬉しく思います。

お読み下さりありがとうございました。



コーヒーセレモニー



働くお母さん